

ウズベキスタン

Republic of Uzbekistan

| | 2012年 | 2013年 | 2014年 |
|-----------------------------------|----------|----------|----------|
| ①人口：3,103万人（2015年1月1日） | | | |
| ②面積：44万8,970km ² | | | |
| ③1人当たりGDP：2,046米ドル (2014年) | | | |
| ④実質GDP成長率（%） | 8.2 | 8.0 | 8.1 |
| ⑤消費者物価上昇率（%） | 7.0 | 6.8 | 6.1 |
| ⑥失業率（%） | 4.9 | 4.9 | 5.1 |
| ⑦貿易収支（100万米ドル） | 1,561 | 1,400 | 792 |
| ⑧経常収支（100万米ドル） | 600 | △963 | 73 |
| ⑨外貨準備高（100万米ドル） | 22,100 | 22,500 | 23,900 |
| ⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル） | 6,660 | 7,383 | 8,084 |
| ⑪為替レート（1米ドルにつき、 スム、期中平均、公定レート） | 1,889.72 | 2,094.99 | 2,310.92 |

〔注〕⑤：各年12月の前年同月比。③、⑦の2013、14年は推計。⑦：国際収支ベース（財のみ）
〔出所〕①②④～⑥：ウズベキスタン国家統計委員会、③⑧：IMF、⑦⑨⑩：アジア開発銀行（ADB）、⑪：ウズベキスタン中央銀行

2014年のウズベキスタン経済は、マクロ指標上は例年並みの高成長を遂げているが、ロシア経済の低迷の影響は不可避であった。ウズベキスタン出身労働移民による外貨送金大幅に縮小した結果、公定と市場レートの乖離幅が拡大した。ウズベキスタン製自動車のロシア市場での販売も激減した。厳しい外貨規制が残るビジネス環境の中、日本企業がプレゼンスを発揮し得る公的資金案件では大型円借款の供与が決定した。

労働移民のロシアからの外貨送金が減少

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2014年の実質GDP成長率は8.1%となった。2007年から8年連続で8%以上の高成長を達成した。部門別でみると鉱工業生産が前年比8.3%増、農業生産が6.9%増、建設が18.3%増と、生産面で堅調な成長が続いている。最大の経済パートナーであるロシアの経済低迷の影響は、マクロ指標上では認められない。しかし、ロシア中央銀行によると2014年のロシアからウズベキスタンへの送金額（資金移動業者経由）は前年比15.9%減の55億8,100万ドル（市場レート換算で2014年GDPの13%に相当）へと大幅に縮小した。ルーブル下落によりウズベキスタン出身の労働移民が本国へ送金のため購入できるドル金額が減少したため、ドル需要がタイトとなり公定レートと市場レートの乖離幅が拡大、2013年末の28.1%から2015年4月末では73.1%までその幅が広がった。市場レートでしかドルが調達できない企業の活動が停滞し、ひいては税率の低下や社会不安への連鎖が懸念される。

2015年3月4日付大統領令「2015～2019年の産業の構造改革、近代化、多様化のための施策プログラム」によると、総額408億1,000万ドルに上る846件の投資案件の実施により2020年にはGDPに占める工業部門の割合を現在の24%から27%へ拡大させる計画である。

2014年12月にはオリー・マジリス（国会）の下院（立法議会）の選挙が行われた。各党の議席構成に大きな変化はなかった。2015年3月の大統領選挙で再選されたカ

リモフ大統領は4月の就任演説で、段階的な改革の正当性を主張するとともに、経済への国家の介入度合いの軽減と、民間部門のさらなる振興を呼び掛けた。

2015年1月以降、主に大企業の企業利潤税（法人税）や零細企業とフェルメール（小規模共同経営農業企業）の統一社会保険料などが引き下げられた一方で、個人所得税は、少額所得者は無税とされたが全般的には引き上げられた。政府は2015年の税率をGDP比で19.7%にまで低下させるとしている（19年前の96年は41%）。

政府は2015年の実質GDP成長率を8.0%（2014年11月、議会採択予算）としている。国際機関は世界銀行が7.6%（2015年6月時点）、欧州復興開発銀行が7.0%（4月）、アジア開発銀行（ADB）が7.0%（3月）、IMFが6.2%（4月）と予測している。

ロシア向け自動車輸出が大幅減

ウズベキスタン国家統計委員会によると、2014年の貿易は、輸出（サービスを含む）が前年比1.5%減の141億870万ドル、輸入が同0.1%増の139億5,920万ドルとなった。輸出はCIS向けが増加、CIS域外向けは減少し、輸出の構成比は逆転し、CIS向けがCIS域外向けを上回った。全体の貿易収支は黒字となったが、黒字幅は1億4,950万ドルにとどまった。

国別で見ると依然として輸出、輸入ともに最大の相手国がロシアである。しかし、ロシア経済の低迷を受け高付加価値製品の代表格である自動車の輸出が大幅に減少

表1 ウズベキスタンの主要国別輸出入
(単位：100万ドル、%)

| 輸出 | | | | |
|-----------|--------|--------|-------|-------|
| | 2013年 | | 2014年 | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| ロシア | 3,443 | 2,798 | 19.8 | △18.7 |
| カザフスタン | 2,083 | 2,540 | 18.0 | 21.9 |
| 中国 | 2,055 | 2,361 | 16.7 | 14.9 |
| トルコ | 897 | 965 | 6.8 | 7.6 |
| アフガニスタン | 669 | 600 | 4.3 | △10.3 |
| イラン | 210 | 318 | 2.3 | 51.4 |
| トルクメニスタン | 170 | 230 | 1.6 | 35.0 |
| ウクライナ | 525 | 193 | 1.4 | △63.4 |
| キルギスタン | 159 | 163 | 1.2 | 2.6 |
| タジキスタン | 145 | 153 | 1.1 | 5.5 |
| 日本 | 10 | 15 | 0.1 | 46.6 |
| 合計(その他含む) | 14,323 | 14,109 | 100.0 | △1.5 |
| 輸入 | | | | |
| | 2013年 | | 2014年 | |
| | 金額 | 金額 | 構成比 | 伸び率 |
| ロシア | 3,181 | 3,308 | 23.7 | 4.0 |
| 中国 | 2,455 | 2,395 | 17.2 | △2.4 |
| 韓国 | 2,035 | 1,873 | 13.4 | △8.0 |
| カザフスタン | 1,062 | 1,008 | 7.2 | △5.1 |
| ドイツ | 545 | 615 | 4.4 | 12.7 |
| トルコ | 451 | 539 | 3.9 | 19.6 |
| ウクライナ | 491 | 415 | 3.0 | △15.4 |
| ブラジル | 262 | 258 | 1.8 | △1.3 |
| 米国 | 331 | 250 | 1.8 | △24.5 |
| インド | 218 | 249 | 1.8 | 13.9 |
| 日本 | 205 | 174 | 1.2 | △14.9 |
| 合計(その他含む) | 13,947 | 13,959 | 100.0 | 0.1 |

[注] 表2とも、サービスを含む。財については通関ベースで、輸出はFOB、輸入はCIF。サービスについては国際収支ベース。
[出所] ウズベキスタン国家統計委員会

表2 ウズベキスタンの主要品目別輸出入
(単位：%)

| 輸出 | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-------|
| | 2013年 | | 2014年 | |
| | 構成比 | 構成比 | 構成比 | 伸び率 |
| エネルギー製品 | 24.0 | 26.0 | 26.0 | 6.9 |
| サービス | 20.6 | 21.5 | 21.5 | 3.2 |
| 綿繊維 | 8.1 | 7.4 | 7.4 | △9.9 |
| 鉄鋼・非鉄金属 | 6.7 | 6.9 | 6.9 | 2.7 |
| 機械・設備 | 5.7 | 3.9 | 3.9 | △33.6 |
| 食料品 | 10.3 | 11.9 | 11.9 | 13.0 |
| 化学品・プラスチック製品 | 4.2 | 4.6 | 4.6 | 6.4 |
| その他 | 20.4 | 17.8 | 17.8 | △14.1 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | △1.5 |
| 輸入 | | | | |
| | 2013年 | | 2014年 | |
| | 構成比 | 構成比 | 構成比 | 伸び率 |
| 機械・設備 | 43.7 | 39.6 | 39.6 | △9.4 |
| 化学品・プラスチック製品 | 14.1 | 16.0 | 16.0 | 13.3 |
| 食料品 | 9.6 | 10.8 | 10.8 | 13.1 |
| 鉄鋼・非鉄金属 | 7.8 | 8.0 | 8.0 | 2.1 |
| エネルギー製品 | 7.2 | 6.2 | 6.2 | △13.4 |
| サービス | 6.8 | 7.8 | 7.8 | 15.3 |
| その他 | 10.8 | 11.6 | 11.6 | 7.7 |
| 合計 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 0.1 |

[出所] ウズベキスタン国家統計委員会

表3 ウズベキスタンの対内直接投資の推移
<実行ベース、ネット、フロー>
(単位：100万ドル)

| | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 対内直接投資額 | 1,651 | 674 | 1,077 | n.a. |

[出所] 国連貿易開発会議 (UNCTAD)

した結果、対ロシア輸出は前年比18.7%減となった。在ロシア欧州ビジネス協会発表のロシアにおける2014年のGMウズベキスタン製大宇ブランド乗用車の新車販売台数は38.0%減の3万7,695台にとどまった(2013年は31.1%減の6万829台)。2015年第1四半期は前年同期比57.9%減と、減速傾向に歯止めがかからない。2013年に天然ガス輸出の本格化によりロシアに次ぐ輸出相手国となった対中国輸出額は、2014年は14.9%増加したものの3位にとどまった。2014年8月に訪中したカリモフ大統領は、中国のシルクロード経済ベルト構想(「一帯一路」)やアジアインフラ投資銀行への支持を表明した。

■電力部門で大型円借款案件に調印

日本側「貿易統計(通関ベース)」によると、2014年の対ウズベキスタン輸出額は前年比37.6%増の1億6,911万ドル、輸入額は71.8%減の2,835万ドルとなった。輸出は日本企業が出資する商用車製造案件向けの組み立て部品(輸出総額の34.6%)のほか、ADB案件のポンプ場改修工事向けポンプ(11.5%)が牽引した。輸入の大幅減は、伝統的に輸入の9割以上を占めていた金が76.8%減となったためである。

公的資金案件をみると、目下、最大の日ウズベキスタン協力分野とされる電力部門では、2014年11月に総額868億3,900万円に及ぶ電力セクター・プロジェクト・ローン円借款に関する書簡の交換が行われた。併せてトゥラクルガン火力発電所建設事業向け718億3,900万円の円借款貸し付け契約(L/A)が調印された。2015年1月には電力セクター能力強化事業向け30億円、さらにADBとの協調融資案件となるアムブハラ灌漑施設改修事業向け118億7,200万円のL/Aがそれぞれ調印された。

国際協力銀行(JBIC)は2015年1月、ウズベキスタン対外経済活動銀行(NBU)と、輸出バンクローンの貸し付け契約を締結した。三井住友銀行と総額74億3,800万円を協調融資する。ウズベキスタン政府が日本製地上デジタル放送網関連機器一式を購入する資金をNBUを通じて融資する。融資が実行されれば、日本貿易保険(NEXI)によるウズベキスタン向けとしては14年ぶりとなる中長期保険引き受けの案件となる。2015年1月には東京で第12回日本ウズベキスタン経済合同会議が過去最大の参加規模で開催され関心の高さがうかがわれた。